

平成30年度 第1回田原市まち・ひと・しごと創生連携会議 委員意見要旨 平成30年7月19日(木)開催

(1) まち・ひと・しごと創生関連事業の効果検証について

1 雇用の創出・就労促進について

(1-1 創業支援)

- ・人口が減少してしまうと商店も減ってしまう。なんとか商店が減っていくのを食い止めるために、事業を後継者に引き継ぐこと、渥美商工会として新しく事業を創業していく人たちの力添えをしていきたい。

(1-2 企業立地の推進・三河港の振興)(2-1 若者・臨海企業従事者の市内定着・定住促進)

- ・これだけの臨海企業がありながら、下請けというのはあまりやっていない。今は、ほとんどが共同会社である。地元の方がやるようになって、地元から社員を採用して定住するようになれば、かなりメリットがあると思う。

(1-3 農業後継者・新規就農者の確保・育成)(2-2 サーファー等の移住促進)

- ・田原市は農業王国ということで農業が盛んである。サーファーが移住してくると、新規就農される方が増えると思うので、一緒に野菜をアピールしていただけたらと思う。

(1-3 農業後継者・新規就農者の確保・育成)

- ・渥美半島は日本一の農業地帯であるが労働力は非常に不足している。渥美半島出身の子どもたちが戻ってきてくれる職場やイメージを提供することは非常に重要である。日本一の農業のまちとしてアピールしたい。

(1-3 農業後継者・新規就農者の確保・育成)

- ・渥美半島は日本のトップクラスの農業地帯であるが、現状は後継者問題に悩まされている。渥美半島の主要産業は農業だと思っている。この地域の資源である農業をいかにして維持していくかについて、行政として考えていってほしい。

(1-5 観光地域づくり)

- ・田原地区で現金決済のみの店が多すぎる。カード決済ができないというのは非常に不便で、外から来る観光客等が現金しか使えないことを認知していないと、田原でお金を使わずに豊橋などに行ってしまうと思う。地元の飲食に限らず、お店に対する金融のインフラの指導について、手数料を半額ぐらい出すとか市としてやっていかないのか。

(1-5 観光地域づくり)

- ・カード決済の話については、W S G の関係で外国人等が来るので、これを機会にキャッシュレス社会、利便性を高めていきたい。田原市商工会の商業部会で、事業者の方がキャッシュレスの制度を作れないかというセミナーを考えている。田原の商業の売り上げは、ものすごく減っているのだから、田原市商工会として積極的に取り組んでいきたいと思う。

2 定住・移住促進について

(1-2企業立地の推進・三河港の振興)(2-1若者・臨海企業従事者の市内定着・定住促進) ※再掲

- ・これだけの臨海企業がありながら、下請けというのはあまりやっていない。今は、ほとんどが共同会社である。地元の方がやるようになって、地元から社員を採用して定住するようになれば、かなりメリットがあると思う。

(2-2サーファー等の移住促進)

- ・漁業区域とサーフィンをやる区域が重なっている状況がある。小型底引き漁業をやる区域にサーファーがおり、仮に事故があった場合、漁業関係者が100%責任を取らされる。漁業関係とサーファーとの兼ね合いの中で、お互いトラブルのないように、安全対策を踏まえて周知をしてほしい。

(1-3農業後継者・新規就農者の確保・育成)(2-2サーファー等の移住促進) ※再掲

- ・田原市は農業王国ということで農業が盛んである。サーファーが移住してくると、新規就農される方が増えると思うので、一緒に野菜をアピールしていただけたらと思う。

(2-4[3-4]ふるさと学習の充実)

- ・7月13日に伊良湖岬中学の3年生を対象としたふるさと学習が伊良湖ビューホテルで行われた。町を知り、人を育てて、その先に仕事の部分が繋がってくる。

3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望実現について

(2-4[3-4]ふるさと学習の充実)

- ・7月13日に伊良湖岬中学の3年生を対象としたふるさと学習が伊良湖ビューホテルで行われた。町を知り、人を育てて、その先に仕事の部分が繋がってくる。

4 地域の魅力・住み良さの向上について

(4-1市街地の活性化)

- ・三河田原駅前に、ラグランという商業施設ができた。インバウンド補助金を活用したので、外国人をいかに誘致するのかと考えたときに、キャッシュレスは必要だと感じた。